

# ステークホルダー委員会

学生や地域住民、企業、行政関係者など様々な立場、視点からのご意見を京都大学の環境配慮活動に反映させるため、ステークホルダー委員会を開催しました。

今年は、京都大学が3年間で特に力を入れてきた省エネルギー、CO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みを中心にご意見をいただきました。

詳しくは詳細版54ページへ [HP](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/environment/report/index.htm/) <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/environment/report/index.htm/>

## 温暖化対策について

CO<sub>2</sub>排出量が増えているという事実は、改善できないのでしょうか。京都大学は市内での多量排出事業者の上位に入っています。CO<sub>2</sub>排出量を大きく減らせるような思い切った取り組みをしてほしいです。

### →本学委員の回答

環境賦課金制度を導入し、省エネ設備への投資や環境配慮行動へのインセンティブになるような取り組みを実施し、CO<sub>2</sub>排出量を減らす努力を続けています。また環境配慮行動の推進(ソフトの対策)には、無駄がわかるようなデータの可視化を示すこととインセンティブが必要と考え、一部の建物で環境配慮行動を通じたエネルギーマネジメント手法開発の試行実験を始めています。さらに、構成員が自ら省エネルギー活動を宣言するウェブサイト(エコ宣言ウェブサイト)を開設します。今後、こうした取り組みの範囲を拡大して、一層のCO<sub>2</sub>排出量の削減を図ることを計画しています。

大学としては、今後ますます活発になると思われる教育・研究活動の先をよく見通して、計画的に省エネルギー対策への取り組みを進めていかねばならないとも思っています。

## 環境報告書・構成員参加型の取り組みについて

京都大学の環境報告書はその役割をきちんと考えられ、表現も工夫されていると感じます。学生の視点から見た取り組みや読みたい内容を取り入れることで、さらに学生に伝わりやすくなると思います。

また、環境に関する取り組みに対してやる気のある学生をうまく大学で育成、活用し、活動の場を与えるという仕組みを作ると、学生の取り組みへの参加が進むと思います。そうした「参加型」のシステムを作っておけば、入れ替わりの早い学生も様々な経験ができると思います。

### →本学委員の回答

これまでの環境報告書では、総長との座談会やステークホルダー委員会の記事を掲載するなど、学生の意見を取り入れる努力をしてきました。

今後、より良い環境報告書を作成することや環境に関する取り組みをさらに推進することを目指して、エコ宣言ウェブサイトなどで環境に関する色々な情報の蓄積を図り、それをもとに学生を含む構成員参加型の仕組みを作っていきたいと考えています。



ステークホルダー委員会の様子